




枚方教職員組合と枚方市 PTA 協議会との懇談会

(中学校部会, 母親情報交換委員会)

日 時: 2003 年 7 月 21 日(祝) 13:30 ~

場 所: 光明寺

進行予定:

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 開会の言葉, 出席者紹介 | 13:30 |
| 2. 開会あいさつ | 13:35 |
| ➢ 枚方教職員組合委員長 | |
| 3. 保護者が学校に関わるということ | 13:40 |
| ➢ 母親情報交換委員会会長 | |
| 4. 議案について組合からの総括的な回答 | 13:50 |
| 5. グループディスカッション | 14:15 |
| 6. 各グループからの発表 |  15:30 |
| 7. 閉会あいさつ | 15:55 |
| ➢ 枚方市 PTA 協議会会長 | |
| 8. 閉会 | 16:00 |
| ➢ 組合からのアンケート記入 | |



組合からの話題提供案

- ・ 教師と親との関わりについて
- ・ 教員の資質についてどう考えているか
- ・ 教員評価システムの導入 (H16 から) について
- ・ 学力診断テストについて
- ・ クラブ問題は各校で話し合うべきでは



クラブ問題について (前懇談会を終えて)

- ・ 中学校部会として, 市または府へ要望を出したらどうか。
 - 部活動に対する規則の改正提案
 - ◇ 外部コーチの積極的活用
 - 人数制限の緩和
 - ◇ 保護者会などによる部活動支援
 - 権限と責任の移譲, 保険加入ルール徹底
 - 予算のオープン化, 財源の確保
 - ◇ 教育活動としての部活動の重要性の認識
- ・ 教職員組合も, 組合という立場で積極的な提言・要求を!



基本的な考え方 (レジュメ作成者の私見)

1. T と P とがお互いを知ろう!
 - ・ 日頃話し合うことの少ない T と P とが本音で話し合うことによって, それぞれの立場や考え方を理解しましょう。これによって一方的な要求と達成されない不満を少なくして, 現実的で建設的な解決策を作り出したい。
2. P を頼って下さい!
 - ・ 発想を変えましょう。教師だけでなく, 保護者や地域とともに子供を育てるシステムを作りましょう。
 - ・ この懇談会を「教師へのクレーム」ととらえないで, 「愚痴を言う」だけに終わらず, 保護者にできることも考えて下さい。保護者が学校に関わることへの積極的で具体的な提案を。どんな風に関わっていけるのか, 役立つことは何か, 逆に迷惑なことは。
3. 「組合として」できることを実行して下さい!
 - ・ 保護者が教師の資質や姿勢を個々に追及することだけでは, もちろん問題は解決しません。しかしながら, 組合として実行できることがあるのでは? 例えば, 子供との時間を増やすための労働条件改善要求, 「教諭」としての素養を高める教育指導提言など。



内容:

1 開会の言葉

2 開会あいさつ ... 枚方教職員組合委員長

- 7月4日に小学校との話し合いがあった。資料の「枚方教育」を参考にしてもらいたい。
- 学校を構成しているのは、子供と父母と教職員の3者で構成されている。この3者が意見を出し合って学校を運営するべき。父母と教職員がいっしょに手をつないだら、レジユメにある基本的な考え方(PとTとがお互いを知ろう。Pを頼ってください)に賛同する。

3 保護者が学校に関わるということ ... 母親情報交換委員会会長

- クラブの問題をあげていたが、なかなか解決できない問題である。私たち父母に何ができるのか。人権啓発委員会で米国での実情を聞いた。Pが積極的に関わっていく様子を見た。私も実際に米国において、ウレイグラウンドやカフェテリアの給仕、図書室の管理などをしてきた。Pができることがあるのだと思う。今回の機会でそのような話し合いができればと思う。

4 議案について組合からの総括的な回答

- 保護者と教師で意見を出し合って学校運営を行いたい。
 - 1) 具体的には以下の4項目を目指したい。
 - a) 子どもたちや学校の様子を、わかりやすく情報公開する。(知らせる)
 - b) 子どもや保護者の皆さんが、学校や教育について意見や要望を出せる場を学校や学級に作る。
 - c) 保護者と教職員の代表を中心に学校協議会を作り、教育や学校の問題で自由な協議を行う。(話し合う)
 - d) 学校協議会での協議を元に、教育行政に要望や要求を出す。(行動する)
 - 30人学級を実現したいのだが、少人数授業が先行して始まっている。教職員が考えてやっているのではなく、上からの指導で行われていることがある。
 - 2) 少人数授業よりも少人数学級が必要。
 - ・現在、全中学校で、数学や英語の少人数授業が行われてきている。少人数自体はきめこまやかな指導ができて良い。
 - ・一方で、市教委から、クラス分けを習熟度別にするよう指導が強まっている。習熟度別は学力を固定化し、生徒の意欲をそぐ点でも問題が多い。
 - ・本来は、少人数学級(30人学級)の早期実現が必要。
 - クラブ活動について
教職員定数の増員、社会体育への移行
 - a) クラブは新学習指導要領では教育課程外となっている。
 - > 学校生活全体の中で、クラブ活動を捉えていくことが必要。
 - b) 教職員数の削減・高齢化などで顧問の確保が困難になっている。
 - > 枚方市の「部活動指導者派遣事業」は一定の役割を果たしている。
 - > 根本的には教職員定数の増加が不可欠。社会体育への移行も検討課題の一つ。
 - 学力問題について
 - a) 「高度に競争的な教育制度が、子供のストレスや発達障害を引き起こしている。」(国連子どもの権利委員会の日本政府への勧告より・1998年)
 - > 「学びたい欲求」があるが、「なぜ勉強するのか」わからない.....。

- b) 学習指導要領(2002年度実施)の問題点
 - >必須教科の授業時数の減少(「総合的な学習の時間」「選択教科」による)
 - >「授業時間の確保が一面的に強調され、生徒会行事や学校行事、また、テスト日数の圧縮」など、教育課程全体が窮屈になっている。
- c) 「学習診断テスト」の問題点
 - >子どもたちの学力実態を明らかにする科学的で客観的な学力調査は必要。
 - >しかし、今年2月に実施された「学力診断テスト」は以下の点で問題がある。
 - ・教職員に内容や実施方法、問題作成や結果分析など、一切知らせずに実施。
 - ・学力調査の結果が、学校間・教師間の競争に使われる危険性がある。

➤ 高校の削減について

Q: 昨年度文化祭が1日になったという話があり、学校へ持って帰って話してもいい、今年からは2日にもどった。この懇談会の効果だと思う。積極的に使っていけばどうか。

Q: テストが2日になった。先生はそれでいいと思っているのか。

いいとは思っていない。授業時間の確保を考えるとできない学校がある。これについては、保護者が声を上げてほしい。それが一番の力になる。

Q: 学力テストについて問題があるということであったが、これはどこかへ発信しているのか。

文部科学省や教育委員会に提言している。

Q: 学習意欲の低下という問題があった。どんな方向を目指せば、学習意欲の低下を食い止められるか、改善するのか、お考えをお聞かせいただきたい。

少人数学級を実現してほしい。学級自体が少人数になるのがよい。

1対1でないと聞いてくれない子供が多くなっており、教育方法を変えなければとも悩んでいる。

今の子ども達は、勉強する意義が分からないと言っている。ここが大きな問題だとも思う。そのことについて考えてほしい。

Q: クラブ活動については、Pができる提案についてアドバイスを。

外部コーチの幅を広げる。外部コーチ、保護者だけでの引率ができれば、という意見もある。問題が発生した時の対処方法が課題。

Q: 部活動指導者派遣回数

各校3000円×70回×3人で間違いない。

技術コーチとしての指導も可能である。

任命が6月1日であるので、予算も6月以降でないと出ないことになっている。

Q: 不登校の生徒に対する学習権の保障について。義務教育であることについての意見を。

プリントを届けたり、放課後に来て見たらと指導している例もある。

Q: 評価システムについて

大阪教職員組合2003年5月発行誌を参照

法を犯すといった者は論外。精神疾患については、指導力不足ではなく、病気として扱うべき。

本年より試行されている。これが今後給与などに反映されるのは問題。評価が目先の成果に囚われることになりかねない。例えば、遅刻が多い、不登校の生徒がいるなどが評価尺度になってはいけない。

➤ その他については、組合からの回答資料を参考にしてください。

5 グループディスカッション

A グループ:

評価システムについて

- (ア) 小学校の一部では、校長は「90点以上の子供が何人」、「全員が九九を言える」、「けが、けんかやいじめのない日が100日以上続く」などの数値目標を上げ、教師に15分プレゼンをさせている。
- (イ) これはもっとも極端な例ではある。校長が例示したもの。
- (ウ) 査定するためにこのような目標を上げることはまったくよくない。けんかやケガがあるのは当然である。いじめはないほうがいいが、人によって感覚が違い判断できない。先生だけに原因があるものではない。子供や保護者にも原因があることを評価することはできないと思う。評価によって先生が動かれては困る。
- (エ) 最前線の教職員で歓迎している人はいないと思う。先生は校長先生と懇談したほうが良い。市民活動の一貫として、校長先生を通じて教育委員会に嘆願することはできないか。校長会との懇談をすればいいと思う。
- (オ) 校長先生がうまくやっていくところはいい。数値目標などという楽な目標設定をする校長が出てきたら大変ではないのか。
- (カ) 自発的に動く先生を見せるのが大事である。上から強制されてやる姿を子供に見せたくない。クリエイティブな子供を育てることを考えてほしい。
- (キ) 個人の教師の資質の問題にしてもダメで、教育システムの不備であるという認識を持つべきである。
- (ク) このような評価システムがあるようでは、公立に行かせたくない親もでてくる。私立に行けない家庭もあり、教育機会の巾が狭まる。
- (ケ) ランクを出すのではなく、良いところを出すような評価にしてほしい。これは今でも地域で現実に行われている。
- (コ) 保護者や地域の声を個々の教師が聞いて、教師が改善しようとする
- (サ) 何にでもメリットとデメリットがある。デメリットが大きいのであれば、それを小さくする努力をすべき。資本主義である企業の評価と学校での評価をいっしょに考えるべきではない。
- (シ) P が学校(校長、教師)と話す機会を多くもつのがよい。一般の先生と話す機会も大切。
- (ス) 評価を地域にもっと戻せばいい。
- (セ) おもしろくない授業でないと聞かないし、やる気もなくなる。先生個人も努力をする余地があると思う。
- (ソ) 九九ができることも大事ではあるが、その達成感を味わうことも大事である。

学ぶ意欲

6 各グループからの発表

■ A グループ

- ・ 評価育成システムについて話題になった。ある小学校では数値目標を上げ、校長の前でプレゼンをするところもある。とても極端な例であるが、とても成果主義的な内容になっている。そのような具体的な数値がないと、校長も教育長に評価されるので、そのような方向になっている。
- ・ 数値目標を上げる、子供に目を向けずに進むのは問題である。一般教師だけでなく、校長とPとの懇談を持って評価システムを考える必要がある。
- ・ 評価数値だけでは見えない影に隠れることも見てもらえるように。
- ・ 企業と同じ制度では教育を判断できない。先生個々ではなく、学校総体として判断できればよい。

■ B グループ

- ・ テスト2日制の問題。
- ・ 各科目の時間数を達成するために 1000 時間以上が必要となっている。
- ・ 総合学習の主旨はよいが、子どもがどれだけできるのかと疑問にも思う。設定主旨のようには進んでいない。
- ・ 参観に来る人が少ない。どうやったら来てもらえるかを考えている。

■ C グループ

- ・ 評価システムについて...給料がどうなるか、ということより、もっと大事な問題がある。
- ・ 学習意欲低下について...テストが2日間で学力が低下する。もっと保護者に声を上げてほしい。
- ・ 生徒会と保護者との懇談を持っているところがある。話をしている中で、子ども達に分かってくれる部分も出てくる。各中学校でも同様な取り組みをしていきたい。
- ・ 子供が遅くまで起きており、朝練で早く起きている。子供は昼間ばやっとしている。子どもの生活スタイルを見直すことも学習意欲を出すのに重要なことである。

5 枚方市 PTA 協議会会長 (小西)

- ・ 学習意欲について 子供に興味を持たせることを家庭でどれだけやっているのかと反省するところがある。子供が興味を持って聞いてきたときに、きちんと対応してきたか。子供に「何で？」と聞かれたときに、「お前どう思う」と聞いたら、自分なりの意見を言ってきた。そうして、自分はこう思うがどう、と考えるようになってきた。
- ・ 先生にも子供に、興味を持ってもらう指導をお願いしたい。子供は興味を持ったことにどんどん取り組んでいく力を持っている。そのような子供を中心にした環境づくりを、先生と保護者がスクラムを組んで取り組んでほしい。
- ・ これを単 P に持って帰り、共同(協働)して行ってほしい。

6 閉会

7 組合からのアンケート記入